

平成25年度最高裁判所総合評価審査委員会（第1回） 議事概要

開催日及び場所	平成25年5月7日（火）最高裁判所中会議室
委員	<p>委員長 中城康彦（明海大学不動産学部教授） 委員長代理 浦江真人（東洋大学理工学部教授） 委員 伊室亜希子（明治学院大学法学部教授） 林弘一（経理局営繕課首席技官） 苅住真（同 次席技官）</p>
委員からの意見・質問及びそれに対する回答等	別添のとおり

(別添)

1 平成24年度総合評価方式による発注状況について

- (1) 平成24年度工事発注状況について説明
- (2) 委員からの主な意見等は以下のとおり

【委員】

広島高地簡裁庁舎耐震改修工事において、3者が入札を辞退しているが、その理由は何か。

【事務局】

辞退理由までは確認していない。

2 平成25年度総合評価方式の実施方針について

- (1) 総合評価方式の実施方針及び見直し事項について説明
- (2) 委員からの意見等はなし

3 平成25年度総合評価審査委員会の審査対象工事の抽出について

- (1) 審査対象工事の抽出について説明
- (2) 委員からの意見等はなし

4 徳島地家簡裁庁舎新営工事の概要について

- (1) 敷地状況、建物概要について説明
- (2) 委員からの主な意見等は以下のとおり

【委員】

気象条件の特徴はあるか。

【事務局】

瀬戸内側の気候であり、年間降水量は約1600mmと比較的少ない。東京と比較して

も200mm程度少ない。

【委員】

温暖な気候を配慮して設計した点はあるか。

【事務局】

日差しが強いため、それを遮蔽するための庇を設置している。

【委員】

東西面と南北面との柱間隔が異なるのはなぜか。

【事務局】

東西面はコアと廊下の配置により柱間隔が決まるため、若干南北面とは異なる。

【委員】

東西面が3800mm、南北面が3500mmとなっているが。

【事務局】

実際の構造柱の間隔は約7mであり、その間にあるのは化粧柱となる。

【委員】

東西面、南北面いずれも約7mの間隔で構造柱が配置されているということか。

【事務局】

そうである。

【委員】

執務室においてはそれ以上に間隔が開いているのではないか。

【事務局】

中央のコア部分においては10m以上の間隔がある。

【委員】

梁成はいくらか。

【事務局】

約1mである。

【委員】

エレベータシャフトの堅穴区画について、ホール側は扉で区画されているということか。

【事務局】

そうである。

5 徳島地家簡裁庁舎新営建築工事の総合評価について

(1) 当該工事の評価項目（①技術提案「連続庇（ハーフ PC 庇）の品質確保及び施工精度向上に関する提案」、②工事全般の施工計画「敷地内及び周辺地域への配慮に関する提案」）について説明

(2) 委員からの主な意見等は以下のとおり

【委員】

PC板の使用範囲について確認したい。柱については、表面だけがPCなのか、それとも全体がPCなのか。

【事務局】

柱の構造はSRCである。

【委員】

柱は全て打放しということか。

【事務局】

そうである。庇だけをハーフPCとしている。

【委員】

庇について、設計はハーフPCとしているが、在来工法やフルPCでの検討は行ったのか。またそういった設計以外の提案が出された場合、どう判断するのか。

【事務局】

在来工法（現場打ちコンクリート）はコスト的に最も安価であるが、出幅が 1.8m の庇を施工するには施工上の難易度が高く、また、庇裏の施工精度の確保が困難である。フル PC については、躯体との取付け金具や養生費において、ハーフ PC より割高となり、また、躯体と完全に一体化しないので、雨仕舞いの点で難がある。結果として、コストと外観上の品質確保のバランスを考慮してハーフ PC を選択することとなった。なお、仮にフル PC での提案がなされた場合、内容が設計と大きく異なり、また雨仕舞い等の性能上の問題が予想されることから、評価しない提案と判断することになる。

【委員】

そういう前提でないと、そもそも提案項目の主体であるハーフ PC について評価することの意味がなくなってしまうことになる。

【委員】

ハーフ PC は工場で製作されるものであるが、製作過程における提案は評価の対象とはならないのか。

【事務局】

工場での製作過程における提案も品質確保という点において評価の対象とすることになる。

【委員】

工場製作時の品質確保と、現場作業での品質確保について、同じ提案内容が出されることはないか。

【事務局】

ないと考える。

【委員】

今回は提案が多く出てくると思われるが、どう予想されているのか。

【事務局】

それなりの数の提案が出されることは予想されるが、公正な評価を行う中で、ふり分けが可能と考える。

【委員】

提案事例③「プレキャストコンクリート部の取付け、部材同士の取合いに関するもの」について、納まりについての提案を想定しているようだが、地震時の変形についても気になる点であり、構造的要素の提案は想定しているのか。

【事務局】

フル PC の場合だと構造的要素の提案も評価の対象となるが、ハーフ PC はあくまでも型枠の代用という点と、仕上げの精度向上という点に比重をおいており、最終的には現場打ちのコンクリートと一体化するため、構造的要素を評価の対象とすることは想定していない。

【委員】

矩計図では、短い鉄筋を入れているだけのように見えるが、それ以外にボルトで固定したりするのか。

【事務局】

ボルト固定は行わない。

【委員】

もう少しわかりやすく表現してもらいたい。

【事務局】

了解した。

【委員】

提案のとおり、「連続庇（ハーフ PC 庇）の品質確保及び施工精度向上に関する提案」及び「敷地内及び周辺地域への配慮に関する提案」を評価項目とする。

6 徳島地家簡裁庁舎新営電気設備工事の総合評価について

(1) 当該工事の評価項目（①技術提案「電力・通信システムの保守性及び将来の改修に対するフレキシビリティを向上させるための技術提案」、②工事全般の施工計画「各施工段階における品質管理を行うための提案」）について説明

(2) 委員からの主な意見等は以下のとおり

【委員】

基幹技能士の活用について、提案書にどの程度記載すれば有効な提案となるのか。

【事務局】

品質管理に関わる具体的な役割が記載されていれば有効としたいと考えている。

【委員】

了解した。

【事務局】

今回、別紙様式の改定を行い、提案の目的や手法・効果・優位性について具体的な記載をするように書式の見直しを行うこととなる。そのため今までより明確な判断ができると考えている。

【委員】

「電力・通信システムの保守性及び将来の改修に対するフレキシビリティを向上させるための技術提案」について、耐震性に関する提案が出された場合はどう評価するのか。

【事務局】

将来のフレキシビリティと保守性に関する提案以外は有効な提案とは評価しない。

【委員】

フレキシビリティと保守性を踏まえた上での耐震性に関する提案であればどう評価するのか。

【事務局】

フレキシビリティと保守性を踏まえたものであれば有効な提案と評価できると考
える。

【委員】

了解した。

【委員】

提案のとおり、「電力・通信システムの保守性及び将来の改修に対するフレキシビ
リティを向上させるための技術提案」及び「各施工段階における品質管理を行うため
の提案」を評価項目とする。

7 徳島地家簡裁庁舎新営機械設備工事の総合評価について

(1) 当該工事の評価項目（①技術提案「配管工事の施工品質向上に関する技術提案」、②
工事全般の施工計画「施工計画から施工、試運転調整まで、各段階における品質管理に
関する技術提案」）について説明

(2) 委員からの主な意見等は以下のとおり

【委員】

提案事例として挙げているものの中には、過去に実例があるということだが、その
効果はどうだったのか。また、その記録をいつまで保存したのか確認したい。

【事務局】

一覧表にして施工図と一緒に綴じ込み、竣工書類として保存している。また、今の
ところ施工後の漏水事故の報告はない。

【委員】

了解した。

【委員】

提案のとおり、「配管工事の施工品質向上に関する技術提案」及び「施工計画から
施工、試運転調整まで、各段階における品質管理に関する技術提案」を評価項目とす
る。

8 その他

(1) 発注スケジュール等について説明

(2) 委員からの意見等はなし